



オルラヤ



園芸シーズンの秋！

おすすめの花苗

10月ともなると、いよいよ園芸シーズンもたけなわ、様々な草花で売り場も賑わい、園芸好きにはワクワクするシーズンとなっています。寄せ植えや花壇にすぐ使える花付き苗もたくさんありますが、この時期に植えこんでおきたいのは、やはり切り花用のラベル苗でしょう。やや小さめの苗を早く植えこんでおくのが、たくさん咲かせるコツ。苗が若いうちに植えこんでおけば根がしっかり張るため生長も早く、ポリキュームいっぱいビックリするほどたくさんの花を付けてくれます。

注目品種をご紹介！

一番のおすすめは「寒咲き蛇の目菊」とも呼ばれる**ベニジューム**。華奢に見えますが、驚くほど生長が早く、10月上旬



までに植えこめば年内に花が咲いてきます。温かみのあるオレンジの花はとも花持ちが良く、寒い時期の切り花として重宝します。最

近登場した花で大人気なのが、レースフラワーによく似た純白の小花をつける**オルラヤ**です。白の小花なのでどんな花とも調和するのですが、ちょうどバラの開花時期と一致するため、バラのベストパートナーとして、一気に人気が高まりました。非常に丈夫で一度植えると、こぼれだねから毎年生えてきて絶えることがありません。



最近、個人的にも気に入っているのが**アグロステンマ**。こちらもバラと一緒に咲かせる花として、国際バラとガーデニングショウでもたくさん使われていました。昔から人気のある**カンパニユラ**（つりがね草）もやっぱりおすすめです。昔は2年草だったので、この時期には大株を植えないと花が咲かなかったのですが、花付きの良い「メイシリーズ」が一般的になり、若い苗でも間違

いなく花が咲くようになったのはありがたいことです。他にも高性の**宿根ロベリア**（洋種サワギキョウ）や**矢車草**、

デルフィニウムなどがオススメですし、ちよつと切り花には使いにくいのですが、豪華な存在感を演出する**ジギタリス**などもこの時期に植えておきたいものの一つでしょう。

管理方法

日当たり良く水はけの良い所なら問題なく育ちますが、特にカンパニユラとデルフィニウム、ジギタリスは酸性の土を嫌うので、苦土石灰などを撒いておくの良いでしょう。ビオラなど比べ、はるかに大きくなるものが多いので、株間はしっかりと開けておくのがポイントです。種類にもよりますが、ベニジュームやアグロステンマ、ジギタリスなどは40センチ程度空けておきましょう。

高性のもので多いので支柱が必要となりますが、ひとつのアイデアとして、つる草に使うアンドン支柱を利用する方法がオススメです。特にベニジュームやアグロステンマのようにたくさん枝を出して茂るものにはとても有効な方法で、いちいち支柱に結び付ける手間がかかりません。植えた後にあらかじめセッとしておけば、茂ってきた時に自然と枝がアンドンの中をぐり、全体として株を支えるようになります。



アンドン支柱